



はやさかアドバイザー

わくわく

防災クイズ

かい せつ
答えと解説

① 災害リスクを理解すること

問1 答え B のブロック塀です。



横倒しになったブロック塀
1978年6月12日、仙台市内

1978年の宮城県沖地震では、倒れたブロック塀や石塀が原因となり、多くの人々が命を落としました。この教訓から、学校や通学路などでブロック塀の安全点検が進められるようになりました。過去の災害で何が起きたのかを知ることは、同じような被害を繰り返さないための第一歩です。

問2 答え B が土砂災害ハザードマップです。

土砂災害ハザードマップを見ると、崖崩れや土石流のおそれがある場所が分かります。Aは洪水ハザードマップで、川があふれたときに浸水するおそれのある場所が示されています。災害から命を守るためには、自分が住む地域でどのような災害が起こる可能性があるのかを知ることが大切です。



赤は特別警戒区域、黄は警戒区域を表しています

② 災害リスクを管理すること

問3 答え A のローリングストックです。

特別な非常食を準備しなくても、日常生活の中で無理なく続けられる備蓄方法です。災害リスクを管理するためには「何が起ころか」だけでなく、「災害が起きたら自分や家族の生活にどのような影響があるか」を考えることが大切です。停電や断水、物流の停止で必要な物が手に入らなくなることを想定し、あらかじめ備えることが被害や不便を減らすことにつながります。

ふだん
普段の生活に
取り入れよう



問4 答え A の携帯トイレです。

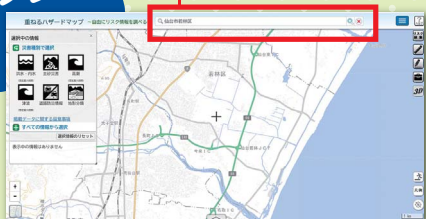
携帯トイレは、断水などで自宅や避難所のトイレが使えなくなったときに使用する防災グッズです。便器に袋を取り付け、凝固剤で排せつ物を固めて処理します。災害時は食料や飲料水だけでなく、トイレも健康や衛生を守るために欠かせません。1人1日5～7回程度の使用を想定し、最低3日分、できれば7日分を備えましょう。



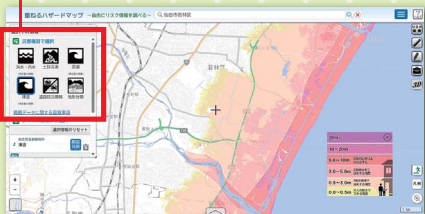
袋に凝固剤を入れて使います。水色の袋は臭い漏れを防ぐ「防臭袋」として使います

ハザードマップの調べ方

① 自宅の住所を入力する

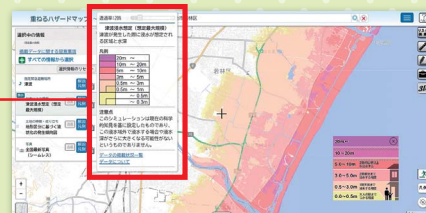


② 災害の種類を選ぶ



ハザードマップを確認したら、次は指定避難所を調べたり、実際に歩いて避難ルートを確認したりしよう！

③ 色の意味を調べる



※画像は国土地理院の「重ねるハザードマップ」を加工して作成。市町村のハザードマップも手順は同じだよ。

はやさかアドバイザーの
ワンポイント
レッスン

仙台防災枠組の四つの優先行動は、それぞれが単独で成り立つものではありません。地域の危険を知り、その影響を考え、必要な備えを進め、災害の教訓を次に生かす。この流れを繰り返すことで被害をより小さくすることができます。

例えばハザードマップを確認する行動は「①災害のリスクを理解すること」に当てはまりますが、これだけ実践していても災害から命を守るわけではありません。

いざという時に避難できるよう準備や訓練をしたり、災害時の備蓄品を用意したりすることも大切です。これらは「②災害リスクを管理すること」をはじめ優先行動③④とも関連する行動です。①④をつなげて考えることで、命や生活を失うリスクだけでなく、災害時の被害を小さくできます。皆さんも優先行動の①④を理解し、自分の生活と照らし合わせて考えてみてください。まずはハザードマップの確認から始めてみましょう。

早坂 政人 はやさか まさと

2003年、仙台市消防局入庁。消防隊員として消火・救急活動のほか、防災・減災や火災予防を地域に呼びかける業務を経験する。20年4月から市危機管理局減災推進課勤務。消防司令。43歳。

